

平成29年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	上田市結婚支援事業
事業主体 (連絡先)	上田市移住定住推進課 (0268-21-0061)
事業区分	(8) その他地域の元気を生み出す地域づくりに資する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,788,592円 (うち支援金: 1,430,000円)

事業内容

結婚適齢期世代の結婚に向けた意識の醸成と、親、企業及び地域住民のサポート体制のスキルアップにより市全体で結婚に向けた機運の醸成を図ることで婚姻数の増加を目指す。

- (1) 未婚者向け婚活セミナー及び出会いイベントの開催
総参加者 115人 [男性65人 女性50] (2回開催)
マッチング数 11組
- (2) 親世代を対象とする婚活セミナーと情報交換会の開催
参加者 28人 (1回開催)
- (3)-1 結婚相談に携わる相談員のスキルアップセミナー
参加者 15人 (1回開催)
- (3)-2 結婚相談に携わる相談員の情報・意見交換
参加者 19人 (2回開催)



【未婚者向けセミナー】

【目標・ねらい】

- ① 上田市婚姻件数の増加
- ② 結婚相談所登録者数の増加
- ③ 独身者の結婚に向けた意識の醸成
- ④ 親、企業及び地域住民のサポート体制のスキルアップ

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ① 上田市婚姻件数の増加 :
目標 754件 (H27) ⇒ 800件 (H29)
実績 733件 (H29) ※参考 730件 (H28)
- ② 結婚相談所(社協・JA)登録者数の増加
目標 756人 (H27) ⇒ 1,000人 (H29)
実績 836人 (H29)
- ③ セミナー参加者から結婚相談所へ登録する者が現れたことは本人の結婚に向けた意識が向上した結果と言える
- ④ 親の参加者から婚活サポーター(県事業)に登録する者が現れたり、独身者の募集にあたり企業が協力していただけるなど地域のサポート体制の構築とスキルアップが図られた

※自己評価【C】

【理由】

婚姻件数、結婚相談所へ登録者数ともに目標を下回ってしまったが、婚姻件数については、H28から微増しており、人口全体が減少し、高齢化も進む中では一定の成果は得られたと考える。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

今年度事業ではセミナーなど基本的な結婚支援の仕組みの構築と実践により一定の成果は得られたが、セミナーに参加するまでの意識を持った独身者への支援となった一方で、セミナーへの参加など婚活をまったく実践していない独身者へのアプローチが不十分であり、今後はそういった無関心層へアプローチする仕組みを研究する必要がある。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

平成29年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	市民協働文化情報発信事業による地域文化の育成
事業主体 (連絡先)	上田市 (上田市交流文化芸術センター) 上田市天神三丁目15番15号 0268-27-2000
事業区分	③教育・文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト事業
総事業費	4,946,400 円 (うち支援金: 3,709,000 円)

事業内容

上田市の進める文化の薫る創造都市の達成のために、上田市主催の文化事業を、取材し、インタビュー・レポート・写真などにより発信するだけでなく、冊子としての体裁を整えることで事業のバックナンバーとして上田市の文化事業を記録・保存する役割も兼ねている。

とくに情報発信事業については、市民が上田市の文化事業の情報発信に参加しやすいよう、市民が主役となる参加型事業を積極的に紙面に取り上げるなどの内容作りを工夫した。

市民の参加・体験する事業について、取材陣が市民と一緒に体験した生の声を伝えたり、上田市で文化活動を継続している市民のコラム寄稿やインタビューなどを掲載したりして、市内での文化活動をより身近に感じてもらい、それら参加者や協力者を起点として、機関誌を媒体とした情報発信協力者を市内に作っていく。

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

機関誌という情報媒体の内容や冊子としての質を高める活動を通して、市内外に上田市の進める事業を広報するとともに、市民自身が話題になるような内容で機関誌を市民から情報発信をしてもらう狙いとした。

その結果、市内だけでなく県外からも発送依頼があるなど、その内容や誌面に対しての評判が広がった。

また当館から機関誌設置依頼先 373ヶ所に加え、市内で積極的に機関誌を通じて文化事業を紹介してくれる事業者が 28ヶ所増えた。これらは市内でのイベント開催時の協力店であり、機関誌の意義を理解し、積極的にお客様や知人に広めてくれるなど情報発信についての主体性ある行動の機会を生み出すことができた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

今回の市内での情報発信事業協力者を、計画的に増やしていくことを目標取組とする。まずは、芸術家のクラス派遣事業で関係の深い市内小学校において、機関誌を保護者や職場などへの事業成果などの伝達媒体として用いてもらうなど、積極的にアプローチしていく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある



【市民参加の公演事業を取材し積極的に記事採用した機関誌】

【目標・ねらい】

- ① 上田市の文化活動の発信
- ② 上田市の文化活動の保存
- ③ まちが生む文化の継続記録
- ④ 市内文化活動の掘り起し
- ⑤ 市民が情報発信に参加

※自己評価【A】

【理由】

県外から機関誌の発送依頼が来るなど、全国的に市の文化事業への取り組みの認知度が飛躍的に向上し、かつ市内で主体的に機関紙をPRしてくれる事業者が増えた。

平成29年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	信州上田 景観・花と緑 まちづくりフォーラム事業
事業主体 (連絡先)	上田市 (都市計画課)
事業区分	⑤環境保全、景観形成に関する事業
事業タイプ	ソフト・ハード事業
総事業費	837,286 円 (うち支援金 : 548,000 円)

事業内容

- 開催日 平成29年12月16日(土)
- 時間 午後1時15分から4時30分まで
- 名称 信州上田 景観・花と緑 まちづくりフォーラム
- 構成 オープニングセレモニー
真田中学校吹奏楽部演奏
都市景観賞表彰式及び花と緑のまちづくり
コンクール表彰式
景観づくり講演会
- 講師 矢澤秀成氏(やざわひでなる)
1967年茨城県生まれ。園芸家・育種家。
NHK「趣味の園芸」講師等。



【景観づくり講演会の様子】

事業効果

- ① 景観づくりの重要性を再認識し、景観づくりに係る住民協働の新たな取り組みとして企画することによって、行政と住民が一体となって景観づくりについて考察できる絶好の機会となり、景観に対する市民の意識の高揚を図るうえで大変重要な役割を果たせた。
- ② 入場者数 約300人
- ③ 上田市都市景観賞 表彰物件4件
出席者(施主、設計者、施工者)11人
- ④ 上田市花と緑のまちづくりコンクール
表彰物件13件 出席者(受賞団体)20人

今後の取り組み

- ① 景観に対する市民意識の高揚を図るためにも、市民協働によるオープニングセレモニー、都市景観賞、花と緑のまちづくりコンクール及び景観づくり講演会を、今後も継続して実施してまいりたい。
- ② 受賞した物件や活動について広く市民にお知らせし、良好な景観形成の参考となるようにしていきたい。
- ③ 景観ウォッチング(街歩きイベント)において、受賞物件を訪れるなど活用していきたい。

【目標・ねらい】

- ①景観に対する市民意識の高揚を図る
- ②美しく潤いのある快適なまちづくりの推進

※自己評価【 B 】

【理由】

- ・真田中学校吹奏楽部によるオープニングセレモニー、著名な園芸家である矢澤秀成氏による講演の効果により、入場者数は約300人と目標を上回った。
- ・講演会では、特に子供たちに花の交配を教えたエピソード等が興味く、また、花づくりの参考になる話も聞け、たいへん勉強になったとの声が聞かれた。

※1 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

平成29年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	「二十歳無料歯科検診」事業
事業主体 (連絡先)	上田市 0268-23-8244
事業区分	(2)保健、医療、福祉の充実に係る事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	967,770 円 (うち支援金 : 730,000 円)

事業内容

市が発行する「無料受診券」(案内はがき)を持参した検診対象者が、市内委託歯科医院において、個別に歯周病検診を受ける事業。次年度の受診勧奨のため成人式で啓発をする。

- 1 時期 平成29年6月から平成30年2月まで
- 2 受診日 市内委託歯科医院の診療日(予約により受診)
- 3 場所 市内委託歯科医院(68医療機関)
- 4 内容 歯周病検診
- 5 対象 平成29年4月1日時点の年齢が20歳の方
- 6 次年度への啓発 成人式において「二十歳無料歯科検診」の案内(予告)と歯ブラシを配布する。



【長野大学生との協働啓発】

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ① 検診受診者は151人であり、当初予定数には及ばなかったが、後半の再通知と大学・専門学校への啓発等により受診者が増えた。
- ② 長野大学生の協力を得て市の行政チャンネル(啓発)に出演していただいた。学生自身が歯科保健に関心をもてたり、また、学生の活動から同年齢の若者が関心を得ることにつながっていくと考えられる。
- ③ 地区組織活動を担っている「健康推進委員」の活動では、歯周病と生活習慣病の関連と歯周病検診の必要性等の研修を行った。特に、本事業により、若年者が健康意識を持てることで予防に大きな影響があることを理解していただき、受診啓発をともにお願いできた。

【目標・ねらい】

- ① 検診の受診者の増加
- ② 若い年代の健康意識の向上
- ③ 地域住民への歯周病・生活習慣病予防の意識啓発

※自己評価【B】

【理由】
・受診人数はそれほど多くなかったが、検診期間中に何件か問い合わせがあり、関心が徐々に高まっていると感じた。大学生の協力が得られたことも大きい。

今後の取り組み

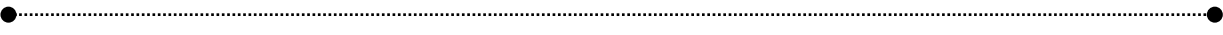
※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

今年度は初年度であったので、準備の関係で6月からの開始となったが、次年度(30年度)は4月から開始とする。1月の成人式に「30年度はあなたが対象です。」の文言の入ったチラシを配布しているので、なるべく時間を空けずに通知や広報で案内をする。また、長野大学生にも今年度同様に協力を得て啓発を継続する予定。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた
「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

平成29年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	ふるさと公園あおきみんなの公園プロジェクト
事業主体 (連絡先)	青木村 青木村役場 総務企画課 企画財政係 0268-49-0111 内線 111
事業区分	(5) 環境保全及び景観形成に関する事業
事業タイプ	(1) 地域協働の推進に関する事業 (3) 教育、文化の振興に関する事業
総事業費	1,435,887円 (うち支援金: 1,076,000円)



事業内容

- ① 花壇コンテスト
ふるさと公園あおき内の花壇エリアを区割りして公募にて個人・団体に植花・管理をしていただくもの。エリアごと花の種類デザインなど自由性を持たせ、花壇の出来栄をコンテスト方式で実施するもの。
- ② こども植樹作戦
子どもたちにツツジの苗木を植樹させることで屋外教育を推進するとともに、子どもにも公園に親しみを持ってもらうために実施するもの。
- ③ みんなの公園アワード
花壇コンテストの表彰を産業祭で行うもの。



【4.29 集中植花祭】

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

2年目を迎える本事業では、4月29日に実施した集中植花祭は、村内9団体150名の参加者の中、盛大に実施することができた。各団体とも花壇の水やり、草取りに意欲的に取り組んでいただき、5月から10月の間、公園内は様々な花でいっぱいになり、来場される方々の目を楽しませ、花いっぱいの村づくりを進める中で大きなきっかけとなった。

また、コンテスト形式とすることで、各団体の励みとなり大多数の団体が継続した取り組みを要望している。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

今後は、参加団体の構成員のみならず、個人からの協働者を呼びかけ、より地域協働の推進を図るとともに、花苗等の寄附も呼び掛けるなど、より住民が主体となり、親しみやすい公園の管理運営を図りたい。

【目標・ねらい】

- ①花いっぱいの景観形成
- ②参加型の公園管理
- ③公園を利用した緑に関する子どもたちへの屋外教育の推進

※自己評価【B】

【理由】

参加団体数を増やすことはできなかったが、官民協働の公園づくりの機運は着実に高まっている。

また、こども植樹作戦として、子どもたちの屋外教育の推進も図られた。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

平成29年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	信州上田地域の山の魅力 PR プロジェクト
事業主体 (連絡先)	日本スカイランニング協会 (contact@skyrunning.jp)
事業区分	⑥産業振興、雇用拡大に関する事業 ア) 特色ある観光地づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,524,079 円 (うち支援金 : 1,082,000 円)

事業内容

以下のスケジュールで、上田、菅平、美ヶ原エリアの山でのレースや練習会、登山道整備の様子を写真・動画で記録をとり、国内外に向けて信州上田の山の魅力の発信ということで、動画配信および冊子(スカイランニングマガジン)を発行した。

(実施スケジュール、場所)

【上田】

- 5月3日 上田バーティカルレース
- 5月4日 撮影会@四阿山 (JSA ユースキャンプ)
- 5月5日 撮影会@上田太郎山 (スカイレース試走会)
- 5月中旬 動画①「上田」完成

【菅平】

- 6月10日 2017 スカイスピード日本選手権
- 6月11日 菅平スカイライントレイルランレース
- 6月下旬 動画②「菅平」完成

【美ヶ原】

- 7月1日 美ヶ原トレイルラン&ウォーク
- 7月中旬 動画③「美ヶ原」完成

【上田②】

- 7月2日 上田太郎山・登山道整備会
- 12月上旬 動画④「2017総集編」完成

2018年

- 1月上旬 動画⑤「2018予告編」完成
- 2月下旬 スカイランニングマガジン2018「特集スカイランニングタウン信州上田」完成。1万部を発行。全国各地に配置。(同マガジンは2014年より無償で配布)



【上田バーティカルレースを支えてくれた地元スタッフの方々】

【目標・ねらい】

- ①国内のスポーツ愛好家への信州上田の山の魅力 PR
- ②海外のスカイランニング愛好家への信州上田の山の魅力 PR

※自己評価 【B】

【理由】

海外からの参加は1団体のみであるものの、マガジン配布・動画配信により広くPRできた。

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ① 上田の山の歴史・山の紹介・人の輪を紹介するマガジンの発行・国内スポーツ店の設置によりスカイランニング愛好家のみならず、スポーツ愛好家にスカイランニングを通した信州上田の山の魅力をPRできた

(別記様式第12号)(第3の8関係)

- ② 山の景色を味わってもらえるような動画の配信により、海外のスカイランニング愛好家に信州上田の山の魅力をPRできた

上記のPRにより、当エリアへの誘客を図りました。

30年度の大会(上田バーティカルレース)に海外から団体での参加獲得の見込み(1団体、10~20名の見込み)。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

継続してPRしていくことが肝要と考えます。動画は繰り返し使用できるので、各大会の実行委員会に提供し、スカイランニング/トレイルランニング愛好家向けに信州上田地域の山の楽しさをPRすることで参加者募集の広報で利用していただきます。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

平成29年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	無茶フェス上田大会
事業主体 (連絡先)	無茶フェス上田大会実行委員会 0268-24-6611
事業区分	⑧その他地域の元気を生み出す地域づくりに資する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	2,496,684円 (うち支援金: 1,997,000円)

事業内容

信州☆総タイガーマスク化計画(児童福祉施設に文具、本、娯楽品などを募り寄贈する活動)を、この活動を提唱したグレート☆無茶の所属する信州プロレスのビッグイベント「無茶フェス上田大会」を開催し上小地域の住民に広く告知し参加を促す。また、大会内で地域の魅力を発信する

これらの運営に地域の若者(高校、大学、社会人)を募り、若者が地域活動に参画する場を提供し、若者の社会参加意識の向上を図る。

なお無茶フェス上田大会当日に募った品々は児童福祉施設である原峠に寄贈する。



【900人超えの活気あふれる会場】

【目標・ねらい】

- ① 信州☆総タイガーマスク化計画の住民への告知
- ② 信州☆総タイガーマスク化計画への住民の参加
- ③ 地域の魅力を発信
- ④ 若者の地域活動への参加

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ① 無茶フェス上田大会告知と併せて信州☆総タイガーマスク化計画の趣旨を盛り込んだ折り込みチラシを65000部配布した、また当日会場においても広報をし、グレート☆無茶からもリング上での説明がなされ一定度の告知ができた。
- ② マンガ本、古本など130冊、娯楽品なども100点以上、生活家電も募ることができた。
- ③ 県内外から986名の観戦者に地域で活躍、全国的に活躍してる方々の活動を紹介でき、初めて知った方がたも多く会場では感心した声が上がった。
- ④ 高校生3名、大学生4名、社会人5名の計12名が集まり企画時点から運営に携わってくれた。当日も地域の魅力発信はほぼすべて彼らを取り仕切った。「面白かった」「何かやってみたい」との声が出てこの経験を活かしてもらえると確信している。

※自己評価 【B】

【理由】

- ・観客数986名 ほぼ予定通り
ただし各種施設入居者の数が「暑さ」「お盆休み」との理由で予定よりも大幅減少であった。
- ・信州☆総タイガーマスク化計画募集物品が予定数に達してなかった
- ・住民ですら知らなかった上田出身、地域で活躍してるヒトを紹介でき地域の誇りとして気づきはもたらせた
- ・若者12名が企画運営を行った。
- ・費用対効果を考えると物足りないのは否めないが、開催時期など改善すればかなり有効であると確信している。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

無茶フェスなどの大規模イベントを通じての展開ではなく、信州プロレスが上小地域各地のまつりやイベントで行う小規模なプロレスマッチに帯同し、信州☆総タイガーマスク化計画の告知のみを予定している。物品の募集に関しては信州☆総タイガーマスク化計画のホームページを通じて行うこととする。

ただし資金・スタッフなど環境の目途が立てば「無茶フェス」を開催しより広く告知、現場で多くの物品を募りたいと考えてる。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

平成29年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	信州上田の産(蚕)業遺産を継承する事業
事業主体 (連絡先)	NPO 法人絹の文化・蚕都常田館 (事務局 小駒はるみ)
事業区分	(3) 教育、文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	1,029,002 円 (うち支援金: 811,000 円)

事業内容

「重文常田館製糸場」の管理しており近年産業遺産が歴史文化や観光資源として注目をされていることから、増加する見学者受入れのために施設設備を整え、一般向け学童向けに地域蚕糸文化の周知活動を行いました。またサポートスタッフ育成にも努め、実地で見学客の案内を担当してもらったほか専門学習会で技能知識の向上を図りました。

- ・見学等受入れ 2481 人(3/20~11/30・冬季、視察取材除く)
- ・施設整備(誘導屋外看板設置 パンフレットHP作成 ボランティアユニフォーム導入ほか)
- ・ガイド育成(対象 12 名。養蚕・糸・機織の体験学習と歴史)
- ・蚕糸文化の動態展示(真綿体験、うちおり機実演展示など)



【団体バス向け誘導看板】

【目標・ねらい】

- 1 受入れ体制作り、来場者の誘導
- 2 「蚕都上田」体験型動態展示
- 3 「蚕都上田および近代化産業遺産について」パンフレット作成

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

1 見学・旅行者向けに公開日程などの施設情報や周辺情報をネットで提供し利便性が高まりました。また屋外看板の設置でバスを速やかに駐車場に誘導できるようになって、より多人数に対応した受入れ体制となりました。2 訪れた小学生に地元の伝統産品である真綿(繭製品)作りの体験や座繰り製糸の実演を見学してもらい地域文化の伝承に努めました。3 施設パンフレットは「蚕糸王国信州および近代化産業遺産について」の視点から制作し建物紹介に止まらない地域史の魅力を伝えています。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

おかげさまで史跡として、まずは団体などの見学受入れ環境が大幅に改善しました。今後は個人見学者や高齢者など対象をよりきめ細やかに深めて取り組んでゆきます。実際の現地現状にあわせてより良い順路を検討したり、資料をわかりやすく配置したり、来場者を繰り返し案内することでボランティアスタッフにも経験を積んでもらい来訪者の満足度向上に務めます。

※自己評価【B】

【理由】

1新HPや現地案内看板の設置で情報提供が充実し駐車や来場者の施設間移動がスムーズになった。2 蚕糸備品が揃い市内一のマンモス小学校に繭体験会を実施することができた。3 新パンフレットで産業遺産を解説できた。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

平成 29年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	安心して老いを迎えられるまちづくり
事業主体 (連絡先)	特定非営利活動法人 新田の風
事業区分	② ④
事業タイプ	ソフト
総事業費	2,676,706円 (うち支援金: 2,003,000円)

事業内容

地域全体で高齢者や認知症の方を温かく見守り、支え、ご家族を支援する体制地域全体で支えあう体制づくり、人材育成が必要となる。また地域での職種の枠を超え・住民の連携の下で、早期の高齢者サポートや認知症発見が行える体制作りが求められる。加えて地域資源を活用した生活を含めた見守りと、認知症の早期発見と重症化予防が重要となる。まずは地域内における連携・・・日頃からの友達作り、ふれあう機会を多く作りつつ、認知症サポーターをはじめとする人材育成と、認知症の早期発見からケアにつなげるネットワーク(医師、薬剤師、介護・福祉職、自治会の連系)の構築、および組織化が喫緊の課題となっている。当NPO法人が中心となりこれらを実践する。

事業効果

◇認知症ケアレベルアップ研修会に各回約50の参加。延べ約300名の参加。平成29年度は、新田地区の枠を設けず実施。修了証受領者(皆勤者)42名。

平成28年度の「認知症サポーター講座」及び各講演会に各100名程度の参加者があった。平成29年度においては今までと違った視点での講演会を企画。

「風の未来塾」として次年度も引き続き実施予定。

エンディングノート簡易版「いのちの選択」平成27年度、3,000部増刷、配布。上田薬剤師会等の協力もあり、順調に配布。当法人オリジナルエンディングノート「人生のしまい方」も公表配布中。

「思いをつなぐ手帳」の3点セットでアピール。

今後の取り組み

今年度は当法人が様々なメディア、専門誌等に取り上げて頂いた影響か?視察が多かった。遠くは宮崎市議会議員団からの視察も受けた。

井理事長への講演依頼も多く、お申し出の希望日程が重なってしまうこともあった。超高齢社会に対応すべき様々な団体、組織が活動を活発化してゆく中で、当法人とのコラボを希望するところも多い。今後、活動資金の確保の為、法人としての事業化を模索して行き持続性のある活動をいかに担保して行くかが大きな課題となっている。

(活動写真)



【海禅寺サロン】
映画「おくりびと」の原作者
青木新門さんを招いて講演

【目標・ねらい】

- ①仲間づくり
- ②地域の連携
- ③公的組織とのコラボ
- ④全国周知

※自己評価 【A】

【理由】

活動も8年目を迎え、新田地区のみならず、全国的にも活動内容が周知されるようになってきた。更なる価値堂の活性化を企図する。